

# 2018 展覧会 & イベントスケジュール

3 月 1 日 (水) ~ 4 月 16 日 (月)

## 「軽井沢文学にあらわれた浅間山の噴火・噴煙」

東日本大震災 (2011.3.11) から 7 年を迎えるのを機に、浅間山の噴火活動に関連する、文学にあらわれた噴火や噴煙を描写した作品を、肉筆資料、著作、初出紙誌など文学関連資料約 200 点で紹介いたします。全国文学館協議会・第 6 回共同展示 (「3.11 文学館からのメッセージ」) に 6 年連続で参加したものです。

4/17,18,19 休館

4 月 20 日 (金) ~ 7 月 16 日 (月・祝)

## 「軽井沢を愛した文学者・芸術家たち スペシャル」

明治以降に軽井沢を訪れ、創作活動を行った文学者・芸術家の作品を、肉筆資料、著作、初出紙誌、絵画など約 200 点で紹介する昨年に続く第二弾。軽井沢を舞台に描いた詩・小説・随筆・戯曲・俳句・短歌などを網羅的に紹介。今回、詩人立原道造をコーナー展示。軽井沢の豊穡な文学の歩みを一望できます。

7/17,18,19,20 休館

7 月 21 日 (土) ~ 10 月 8 日 (月・祝)

## 夏季特別展「新しい世界文学へ 加藤周一・中村真一郎・福永武彦 マチネ・ポエティック、モスラ、…」 (仮)

加藤周一、中村真一郎、福永武彦の 3 人は、戦後まもなく『マチネ・ポエティック詩集』『1946 文学的考察』という同じスタートラインで日本の文学社会に登場しました。戦後文学の最初の担い手であり、戦後の軽井沢の文学を始めた一番若い世代でした。昭和 20 年代を同じラインで活動し、その後、仕事の方向性に違いが出てくるものの、一貫して戦後社会をどう生きるか、平和とは何か、を追究した点は 3 人に共通します。2018 年は中村、福永の生誕百年、加藤周一の生誕 99 年にあたり、この機会に 3 人の仕事を振り返ります。

10/9,10,11 休館

10 月 12 日 (金) ~ 11 月 30 日 (金)

## 「皇室と軽井沢—幅北光写真でたどる—」 (予定)

平成の時代がまもなく 30 年余で終わろうとしています。2015 年、写真家・幅北光氏のご遺族から寄贈いただいた約千点余の写真の中に、軽井沢に避暑に訪れられた皇室の方々の写真も含まれています。この機会に、軽井沢において撮影された文学者たちの写真等と共に、「皇室と軽井沢」を紹介します。

12/1- 休館

### < イベント >

- 高原文庫の会 8 月 4 日 (土) 14 時~ 講師: 中村哮夫 (演出家)「わが青春の追分 — 加藤道夫と福永武彦と —」  
聞き手: 矢代朝子 (俳優・当館理事) 会場: 高原文庫中庭  
(註: 中村哮夫氏はミュージカル「ラ・マンチャの男」「王様と私」など、日本におけるブロードウェイミュージカル初演時演出家の第一人者)
- 高原の文学サロン 8 月 25 日 (土) 14 時~ 講師: 樋口陽一 (憲法学者・東京大名誉教授)「「文学」を再定義した文学者 — 加藤周一さんの仕事について —」 (仮)  
会場: 高原文庫中庭
- 朗読会 「福永武彦ミステリー劇場 名探偵・伊丹英典@睡鳩荘」  
( 予約受付開始 ) 7/15 (日)、16 (月・祝) 各 13 時~、17 時~ (計 4 回) 会場: 旧朝吹山荘「睡鳩荘」  
( 5/1 日 9 時~ ) 出演: 山本芳樹 (Studio Life)、笠原浩夫 (Studio Life)、坂本岳大、矢代朝子  
福永武彦 (加田伶太郎)「完全犯罪」「温室事件」 (予定)
- 文学散歩 ①新緑の追分を歩く 5/19 (土) 13 時~、②晩秋の旧軽井沢を歩く 10/20 (土) 13 時~
- 辻邦生山荘見学会 ①6/2 (土) 13 時~ (※予約受付 4/1 日 9 時~)、②9/1 (土) 13 時~、③10/6 (土) 13 時~ (計 3 回)
- 軽井沢再発見講座 5/28 (月) 13 時~ 講師: 大藤敏行 (当館副館長)「堀辰雄の 4 つの別荘を巡って」  
会場: 堀辰雄 1412 番山荘